



ルノワール「自画像」1910年（個人蔵・パリ）

フランスの肖像展

ルノワール、ピカソ、マン・レイからバルテュスまで

1994年9月23日金 - 10月23日日

開館時間 = 午前9時 - 午後5時（入館は午後4時30分まで）※初日開館午前11時
休館日 = 9月26日(月)・27日(火)・10月3日(月)・11日(火)・17日(月)

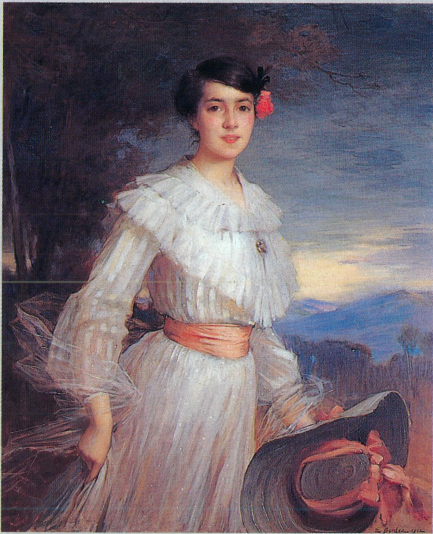
主催 = 刈谷市・刈谷市教育委員会・中日新聞社 後援 = フランス大使館・愛知県教育委員会 協力 = AIR FRANCE
入場料 = 一般800円(600円)・学生〈小・中・高・大学生〉500円(300円) ※ ()内は前売り及び20名以上の団体料金

刈谷市美術館

〒448 愛知県刈谷市住吉町4-5 TEL 0566-23-1636 FAX 0566-26-0511
JR東海道本線・名鉄三河線「刈谷駅」下車、南口から徒歩7分 無料駐車場あり

フランスの肖像展

ルノワール、ピカソ、マン・レイからバルテュスまで



ボルド「マドレーヌ・ルクリュの肖像」1902年
(ポー美術館)



ピカソ「フェルナンドの肖像」1907年
(シュティフトゥング・ルートヴィヒ近代美術館)



アングル「オルレアン公の肖像」1843年
(イアサント・リゴー美術館)



ビエール・エ・ジル「白い王妃(カトリーヌ・ドヌーヴの肖像)」1991年
(サミア・サウマ画廊)



バルテュス「青い衣装を着たイレル夫人の肖像」1935年
(ゲオルグ・ヴェヒター財団)



マン・レイ「自画像」1916~70年
(マリオン・メイヤー画廊)

人間の姿をとらえた肖像は、そのひとの姿を在りし日の記憶とともに永遠にとどめたい、刻み込みたいと願う人々の欲求によって、はるか古代から作りだされてきました。

すでに古代エジプトでは、朽ちていく肉体にかわる死後の魂の居所として、王や王妃の記念像がつくられています。古代ギリシア・ローマ時代には過去の偉人や哲学者などの理想像、皇帝像など、優れた肖像彫刻があらわれました。これら特権階級の肖像は、モニュメントとなって地位の表現や権力のシンボルとして社会的にも機能してきました。

中世、厳粛なキリスト教美術におされ後退したヨーロッパの肖像表現は、15世紀になるとふたたび花開きます。レオナルド・ダ・ヴィンチ、ラファエルロ、ミケランジェロなど傑出した芸術家たちが登場したルネサンス。人間性の回復と自然の美を高らかにうたいあげたこの時代、人間の可能性への信頼と自我を主張する個人意識の確立によって、芸術の主要なジャンルとなりました。宗教的、儀礼的な束縛にとられない新たな肖像の歴史がはじまったのです。

19世紀に写真が発明され人々に広まるようになると、人物の特徴をそのまま写し取る記録としての機能から解き放たれ、その役割を新技術の写真に譲り渡します。人間の存在そのもの、かくされた内面の表現をめざす近代精神をそなえた肖像世界が生みだされました。

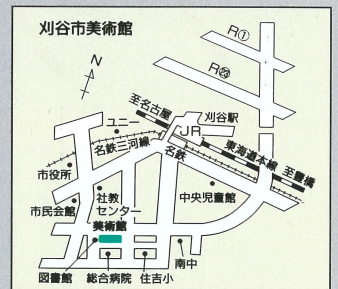
そして、今世紀。フォーヴィスムやキュビズム、抽象諸派などさまざまな芸術運動が絶え間なく繰り広げられ、劇的に芸術観が変化してきました。そのなかで、もはや肖像も、肖像画や肖像彫刻といった限られたスタイルにこだわらない芸術家たちによって、その姿をより自由に大きく変革してきました。

本展は、19世紀以降の革新的な芸術運動の舞台となったフランスを中心に、写真発明後の肖像のうつりかわりを振り返るものです。アングルやルノワール、ピカソなど巨匠たちの油彩画や彫刻、インスタレーション110余点を展示し、肖像表現の多彩な展開をご紹介します。

展示説明会 10月1日(土)・16日(日)・22日(土)/担当学芸員/午後2時より展示室にて

刈谷市美術館

- 所在地
〒448 愛知県刈谷市住吉町4丁目5番地
TEL 0566-23-1636 FAX 0566-26-0511
- 交通案内
JR東海道本線・名鉄三河線
「刈谷駅」下車、南口から徒歩7分
- 駐車場
45台収容可能(無料)



フランスの肖像展

ルノワール、ピカソ、マン・レイからバルテュスまで

●本券では入場できません。当日、本券を受付にお出し下さい。1枚につき1名様限り下記割引料金にてご鑑覧いただけます。
一般800円→700円/学生<小・中・高・大学生>500円→400円

割引券

フランスの肖像展

ルノワール、ピカソ、マン・レイからバルテュスまで

●本券では入場できません。当日、本券を受付にお出し下さい。1枚につき1名様限り下記割引料金にてご鑑覧いただけます。
一般800円→700円/学生<小・中・高・大学生>500円→400円